



展望デッキ「スマイルテラス」へ。平日でも結構な賑わい。



空港から海までの間に建物はほとんどなく、避難丘が点在している。



東日本大震災時の津波浸水深を示すプレート。身長よりずっと高い位置にある。

旅気分を空港で
仙台空港ターミナルビルの展望デッキ「スマイルテラス」は入場無料。飛行機の搭乗チ

「あっちの道だけ……。車が基本だから、歩道はあったかなあ」。苦笑いとともに返ってきた返事の裏に、目的地までの距離の遠さを感じ取り、断念。それなら避難丘に登ってみようかと一番近くの丘に目を向けると、いつの間に来たのか、小さな子供たちの集団が。子供の邪魔はしたくない。空港ターミナルビルにある展望デッキに向かう。

想像される。駅を出て駐車場を抜けると、海まで広がる空き地に建物は数えるほどしかなく、震災後に整備された津波避難丘が点々としている。丘の上からは海岸線や空港が見渡せるらしいが、確か仙台空港近くには飛行機の発着が真横で見られる公園もあったはず。人の気配がない空き地で、どうにか工事車両の交通整理をしている人を見つけて道を尋ねる。

連絡通路を渡っていく人の流れから外れ、駅の外に出るエスカレーターに乗る。途中の壁には「2011.3.11東日本大震災 津波浸水深ここまで」の表示。エスカレーターを降りて仰ぎ見ると、表示の位置は約3メートル、手を挙げて届かない高さにある。震災当時、駅舎1階にあった仙台空港アクセス線の運輸指令室やトンネルは浸水。甚大な被害が出たという。あれから10年、綺麗に修繕された現在の姿に震災の傷跡は見られなけれど、浸水深の表示の高さに被害の程が

ケットがなくても入ることができる。そのせいか、フライトまでに時間があるからというより、飛行機を見ることを目的に空港にやって来たという感じの親子連れが多い。

そんなことを考えていたら、「ふらんすに行きたしと思へども ふらんすはあまりに遠し。せめては新しき背広をきて きままなる旅にいでてみん」と謳った萩原朔太郎の詩を思い出した。今の心境をこの詩に当てはめるとしたら、さしずめこんな感じかも……。

「撮れなかった！ もう一回」を繰り返す。その「もう一回」までの間隔が、結構長い。次の便を待ちながら、滑走路の先に目をやると、美田園駅を出た電車がトンネルに入り……駐機場のすぐ脇から出てきた。車内の様子は見えないけれど、突然、真横に現れた飛行機に、「あー」と思った乗客がきつこいたはず。「いつもと違つどこか」につながる

空港や飛行機には不思議な魅力がある。実際に飛行機に乗ってどこかに行くわけじゃなくても、飛行機を見るとテンションが上がる。空港に行くだけでワクワクしてくる人も少なくない。



高架が低くなってトンネルへ（写真左）。トンネルの出口は駐機場の真横（写真右：中央のあたり）。



離陸の瞬間を撮るのは難しい。